

# 米国メイヨークリニックにおける研修報告：患者に合わせたサポート体制の実際

Individualized support for patients: Report of training at Mayo Clinic in the United States

○柴山薫<sup>1</sup>

Kaoru Shibayama

1 佐賀大学 医学部看護学科

Institute of Nursing, Faculty of Medicine, Saga University

## 【はじめに】

私は、木村看護教育振興財団の海外看護研修助成事業にて、米国のメイヨークリニックで研修を受ける機会を得た。本研修は、患者がその人らしく療養できるサポート体制について学ぶことを目的とした。

## 【方法】

1. 研修期間：2019年9月14日～10月6日
2. 研修場所：アメリカ ミネソタ州 メイヨークリニック
3. 研修目的：患者がその人らしく療養できるためのサポート体制を学ぶ。
  - 1) 高度実践看護師を含めた看護師の役割とケアを知る。
  - 2) 意思決定支援の現状を知り、看護師が担う役割を学ぶ。
  - 3) 多様な人種、宗教、言語の患者に対するサポートを知る。
  4. 研修形態：各研修者の研修目的に沿った個別研修プログラム。集団講義と個人の目的に応じた臨床現場における1対1でのシャドーイングとディスカッション。
  5. 研修内容：病院見学、各専門家による講義、消化器やがんに関連した病棟・外来におけるシャドーイング、がん患者教室の見学、Nurse Practitioner (NP)・Physician Assistant (PA)の外来見学

## 【結果】

1. 高度実践看護師を含めた看護師の役割とケア  
病院内ではClinical Nurse Specialist (CNS)やNP等多数の高度実践看護師が活躍していた。CNSは主に病棟に配属され、看護実践改善のための指導に従事していた。NPは病棟や外来に配属され、患者の急変時の対応や化学療法の薬剤のオーダー等を行っていた。また、NPは外来にてPAと同様に診察・診断・治療・疾患管理を行っていたが、よりpatient based careの視点を持ち、日常生活での対処方法の説明、体重管理や内服管理等の指導に時間を割いていると感じた。

病棟においては、Registered Nurse (RN)が基本的に患者のケアの中心を担っていたが、日本と大きく異なっていたことはPatient Care AssistantがRNの指示のもと、患者の清潔ケアや移乗の介助など日常生活援助を行っていたことである。またIV Technicianが末梢静脈路の確保を行い、輸血担当スタッフが血小板の投与を行い、移送担当のスタッフがベッドで患者をMRIへ連れていく等様々な職種が業務を分担し、協働しながら患者の療養を支えていた。そのため、RNは患者のベッドサイドにいる時間を十分に確保でき、全身状態の把握だけでなく、患者や家族とコミュニケーションを密に図りながら、説明や教育

に重点を置くことができていた。

## 2. 意思決定支援と看護師の役割

メイヨークリニックでは、患者や家族の理解を促し、意思決定につながるサポートが充実していた。患者や家族が自主的に情報収集できる環境としてPatient Education CenterやCancer Education Center等が整備されていた。入院中の患者には、医師のチームやSocial Workerのチーム等が日々ラウンドし、患者や家族と今後の治療予定や治療目標、退院について話し合いを行っており、RNも常に患者や家族の意向を確認し、医療者間で情報共有を行っていた。また、患者の意思決定能力が低下し代理の意思決定が必要な場合やケアの目標の対立が起こった場合等、倫理的問題が生じた場合には、医療者だけでなく患者や家族も利用できる倫理コンサルテーションサービスが24時間体制で整備されていた。

## 3. 多様な人種、宗教、言語の患者に対するサポート

メイヨークリニックには世界中から多様な人種や宗教、言語の患者が来院する。そのため、宗教に関係なく誰もが利用できるMeditation Roomやイスラム教、キリスト教の人それぞれが礼拝できる場所が設けられていた。また、総数23名のチャプレンが24時間体制で、精神的苦痛のサポートを行っていた。また、多言語に対応した通訳のサービスや多言語に翻訳された患者用の教育資料も充実していた。

## 【まとめ】

メイヨークリニックは、個々の患者に合わせたサポートを行うために、制度や設備、人的資源が充実していた。日本では看護師が患者に関わる多様な役割を担うことが多いが、メイヨークリニックでは多職種が業務の役割分担を明確にすることで、看護師は患者のベッドサイドでのケアに注力でき、充実した患者の療養につながっているのではないかと強く感じた。

本発表は、木村看護教育振興財団の海外看護研修レポートに一部修正を加えたものであり、研修で得た情報の公表に関しては、木村看護教育振興財団の許可を得ている。

演題発表に関して、開示すべき利益相反関連事項はありません。